

建学の精神	自然豊かな環境の中で、誠実にして、豊かな情操をもち、しかも実力ある人を育てる
-------	--

学校教育目標	本年度の重点目標
1. 不登校生徒や進路変更した生徒を支援し、生徒の登校状況や発達段階に対応したきめ細やかな教育を授けることにより、自発的に将来を見つめ、卒業後の進路を発見できる学校 2. 南木曾町が誇る様々な伝統技能体験、妻籠宿の町並み、様々な文化財から信州学を学び、理解し、それらを大切に育む教育ができる学校 3. 南木曾町ならではの豊かな自然環境に触れ合い、フッククラフト(アウトドア・防災技術)を学ぶことで自然を体感し、共生できる力を育む教育ができる学校 4. キャリア教育につながるコンピュータ・調理・ファッションに関わる技術習得や資格取得を、助手として兼任する専門学校教員が実習指導することで技術教育を学ぶことができる学校 5. 等身大投影(AR技術)による双方向遠隔授業を取り入れ、本校と各サテライト校を結ぶことで、面接指導と同等な学習環境を常に提供できる学校	1. 開校2年目に当たり、学校組織と学校運営の円滑な実施と、生徒の状況に応じた施設設備の整備拡充に努める。 2. 長野・岐阜・愛知を基盤とした通信制高校として、広報活動に努め一層の認知度を高める取り組みに力を注ぎ、さまざまな面で地域連携を進める。 3. 在学生と新入生に適切な指導に努め、生徒一人一人を大切に育む面倒見の良い教育の実践を推進する。 4. 今年度から実施する山本学園高等課程との技能連携に伴う生徒増等の諸課題に対し、効果的かつ円滑な運営をすすめる。

評価基準 : A…ほぼ達成 B…概ね達成 C…やや不十分 D…不十分

対象	評価項目	評価の観点	成果と課題	評価	次年度への改善策
学習指導	① 基礎基本学習の定着及びマナーの教授	<ul style="list-style-type: none"> <li>各教科指導において、生徒の理解を進めるため、授業やレポートを検討工夫し、基礎・基本を定着することができたか。</li> <li>生徒の向学心を育成し、基本的な生活マナーを向上できたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導事項を明確にして、基礎基本の定着を図るための授業実践を心掛けた。一方理解を深める面では、スクーリング時間が不足して十分ではなかった。</li> <li>ガイダンスの時間に日常生活のマナー等の指導を行った。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎学力が不足する生徒の指導を、基礎教養等を活用し教員間で協力し取り組みむ。</li> <li>観点別評価に基づいたレポート課題の作成と授業実践を目指す。</li> <li>生徒意識の変化に対応し、サブプリント等の作成で理解を深めていく。</li> </ul>
	② 学習指導方針である「面倒見の良さ」の実現	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の実態に基づいて、AR授業において学習資料や指導方法の改善を図り、「わかる授業」「できる授業」になるよう工夫したか。</li> <li>生徒自らが意欲的に学習に取り組むよう、授業とレポート学習の計画的な支援を展開することができたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>AR設備を活用し図表や動画を取り入れた授業を進め理解定着を図った。</li> <li>レポート課題、提出日、スクーリング日の確認などを随時行い、計画的な支援を行った。</li> <li>また欠席者について再受講までの指導ができた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>幅の大きい生徒の実態に即したAR授業やレポート学習を計画支援する。</li> <li>意識付けのためサブプリント等を作成し、理解を深めていく。</li> <li>スクーリングを安易に休まないよう、各校担当者と連絡を密にとる。</li> </ul>
	③ 生徒の実情に合わせた学習支援とAR授業および職員研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>法定回数以上の面接授業を実施し、AR授業や多様なメディアを活用したわかりやすく充実した授業ができたか。</li> <li>適切なレポート問題の作成および適切な添削指導ができたか。</li> <li>学習理解度を十分上げるため、スクーリング以外での補習授業や学習支援ができたか。</li> <li>AR授業充実に向けて、必要な職員研修が実施できたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>AR授業は教員の力量に負うところが大きかった。また、準備が遅れることがしばしばあった。</li> <li>法定回数以上の面接指導は実施したが、学力不足の生徒には十分な回数ではない。</li> <li>レポート課題と添削指導をいねいに実施した。</li> <li>検定指導では十分な補習ができた。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業開始30分前にはARを準備し、各校で通信状態を確認しておく。</li> <li>新学習指導要領に沿った指導事項を明確にしたレポート課題の作成と授業実践を目指す。</li> <li>基礎教養の指導と連携していく。</li> </ul>
	④ 単位認定までの学習指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>科目担当者は学習評価、補習授業や学習支援の適切な指導ができたか。</li> <li>出欠管理やレポート提出の確実な管理が適切にできたか。</li> <li>各校の担当は学習環境を整え、生徒への助言及び保護者への適切な連絡ができたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナ感染の中でも、出欠レポート提出管理、補習授業や再試験が適切に行われた。</li> <li>AR授業の指導は各校との連携と工夫が必要である。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>新旧の課程が併存するので、指導事項を整理して計画を立てる。各校との連携を工夫し、生徒の学習の確認をとっていく。</li> <li>出欠管理に関するシステム化を図る。</li> </ul>
生徒指導	① 生徒適性に合わせ、社会人基礎力とマナーを高める指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会人基礎力(前に踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力)を涵養育成できたか。</li> <li>総合的探究や特別活動時間を活用し、生徒の社会進出を見据えた社会人基礎力や進路意識の教授ができたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別活動を通して、安全な行動の心得、職業観の形成や進路を考えるきっかけを作ることができた。</li> <li>十分できた生徒とそうでない生徒にばらつきがある。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>人間関係やコミュニケーションに苦手な生徒に、社会適応力を涵養するための指導を工夫する。</li> <li>定期的に個別指導時間を設ける。</li> </ul>
	② 登校が難しい生徒への支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>通信機器等を使用した適切な遠隔学習支援を行うことができたか。</li> <li>必要に応じて最終学期(V期)の特別集中スクーリング期間を設けて単位修得指導ができたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ほとんどの生徒が受講した科目の単位を修得することができた。</li> <li>個に応じて、週1日から2、3日へと登校機会を計画的に増やして適応力を高めた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>登校困難な生徒に向けて家庭への配信授業を模索する。</li> <li>次年度も継続して、家庭等の協力を得ながら指導していく。</li> </ul>
	③ 家庭保護者との連携と支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>e-pa(メール連絡網)の効果的な活用により、生徒状況の的確な把握と、保護者との適切な連絡が取れているか。</li> <li>計画的かつタイムリーな連携をとり、充実した学校生活を送れるように支援しているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>e-paや電話を駆使して、機を逃さずに保護者に適切な連絡ができた。</li> <li>十分な登校ができるように支援し、生徒の保護者への連絡も密にできた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>連絡は保護者の負担を考慮し、事前にe-paで連絡してから電話する方法を考慮する。</li> <li>生徒数の増加を踏まえ、家庭等の協力を得ながら生徒指導の充実を図る。</li> </ul>
進路・保健指導	① 進路指導とキャリア教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒個々の進路目標実現に向けて適切な支援と助言ができたか。</li> <li>ハローワークなどの外部組織と連携した進路指導の推進ができたか。</li> <li>卒業後を見据えたキャリア教育を推進し、生徒の進路選択の助けとなったか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒・保護者との懇談、ハローワークとの連携を通して、職業観の形成、進路選択決定に結びつけることができた。</li> <li>必要な生徒には外部機関提案などをして、個々の状況に合わせた助言ができたが、十分とはいえない。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>キャリアパスポートの活用、ハローワーク等外部職員を招いての講話を計画して、勤労の尊さを体得させる。</li> <li>職員間で情報を共有し、生徒個々に合わせた指導助言を行っていく。</li> <li>外部組織と連携し、卒業予定者について具体的な相談をすすめる。</li> </ul>
	② 技能連携教育の準備と推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度開始した技能連携教育の円滑な運営と実施ができたか。</li> <li>技能連携についての生徒と保護者への理解と協力を進めることができたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>高等課程と具体的手続きに関する連携を図ることが出来た。</li> <li>運営協議が十分でなく、意識にずれがある場面があった。依頼が口頭のみで書類によるものが十分でなかった。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>年間を通して、協議の場を定期的に設定、連携担当者との連絡を密にとり、より発展的に運営できるように協力していく。</li> <li>スケジュールに則り依頼文を適宜作成し推進する。</li> </ul>
	③ 健康の保持増進及び新型コロナウイルスへの対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>保健室の計画的な運営により、養護教諭やスクールカウンセラーと連携し、生徒が心と体の健康を自ら管理できる知識と実践力を養うことができたか。</li> <li>新型コロナウイルスに対して、適切で効果的な感染症対策ができたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期的に養護教諭との面談を行い、健康状態の確認を行い、適切な指導ができた。</li> <li>家庭との連携を密にしコロナ感染防止対策を講じることが出来た。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>配置予定のスクールカウンセラーの計画的な活用により、生徒の精神的安定を図る。</li> <li>引き続きコロナ対策をしっかり行う。</li> </ul>
学校運営	① 学校組織と学校運営の確立と充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>前年度の成果に立脚した職員組織の整備と各種規定規則の改訂が適切に行われ、学校運営の改善が進められたか。</li> <li>昨年の経験と実績をもとに、生徒募集の一層の推進のため、学校説明会や広報活動が効果的に実施できたか。</li> <li>入学者、転編入学者に対し、本人保護者、及び前籍校への適切な対応ができたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>規則改訂は一部に留まり大改訂はできなかった。</li> <li>生徒募集、広報活動は効果的に実施し、新入学、転入学者に対し適切な対応ができた。</li> <li>転籍者、新入学生へ担当を分けて説明、案内をし、一定の成果を上げられたがまだ改善の余地がある。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>各校間で共通理解、行動を確かなものにする協議の在り方を工夫する。</li> <li>より発展的な組織運営ができるようにする。</li> <li>分掌の大幅な改訂を行い、適材適所の配置を行う。</li> </ul>
	② 新設2年目の通信制高校としての施設設備の拡充整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設設備の充実拡充・補修点検をおこない安全管理に努める。</li> <li>生徒数増に対応し、適切な施設運営と環境整備を進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>現有設備の点検を十分おこない、新型コロナ感染防止対策の徹底に努めた。</li> <li>生徒数増への対応を行ったが、待機スペースの確保が十分できないのか、生徒の学校の滞在時間が減少した。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別活動に安全教育を位置づけ、施設内行動や活用を計画的に実践する。</li> <li>生徒スペース確保のため待機室の設置等工夫を検討する。</li> <li>業者による耐震点検を行う。</li> </ul>
	③ 広報活動と情報発信および地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>各校において様々なメディアを通じた十分かつ効果的な広報活動を行い、認知度を高めることができたか。</li> <li>中学校訪問を適切に実施し、成果を上げることができたか。転入生についても、前籍校との適切な連携を考慮する。</li> <li>本校や各サテライト校で地域連携を積極的に進め、地域に開かれた学校を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>横断幕・ブログ更新・生徒の様子を紹介する、効果的に広くPR認知度を上げた。</li> <li>学校紹介、個別相談会を少数対象で実施し、生徒確保につながられた。</li> <li>転学は前籍校と連携できたが、転入生の増加がなく一層の工夫が必要である。</li> <li>地域との連携はコロナ禍のため、総合探究以外では不十分だった。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>中学校訪問、個別相談会の回数、内容を工夫充実させる。転入生については渉外、広報ともに工夫が必要である。</li> <li>高等課程の渉外担当者との連携を一層密にする。</li> <li>コロナが収束したら、地域への学校開放を行い理解度を深める。</li> </ul>